

## 職業—Vocation—から感動を



『ロータリーの友』委員会

顧問 岩崎 稠 (福島東)

「ロータリーは決して宗教でもなければその代用物でもない。それは古くから存在する一道德観念の現代生活における、ことに実業職業生活における実践に他ならないのである」

これはポール P.ハリスが『ロータリーの理想と友愛』(米山梅吉訳)の挑戦の章を締めくくった一節であります。

この文の「古くから存在する」との形容句は読み流せない言葉と考えます。自然界には引力のように目には見えないが、私たちを支配する法則があると解釈するからです。このころの世の一部の指導者の不正や不祥事の惨状は、道德観念の低下以外の何物でもありません。ハリスは、散ずるに困るほどの金銭の獲得には賛意を示しませんが、利得については否定していません。しかし、利得に走ると社会で果たすべき義務がおろそかになることに注意を促しています。

初期のロータリーは相互扶助という会員同士の利己の追求であったことは否定できません。が、時をおくことなく、相互扶助の制度に反省がおこります。ハリスは「相互扶助の観念は一般的奉仕の観念に世を譲った」と表現しています。この相互扶助の制度にロータリーの奉仕の原点、なかんずく、職業奉仕の原点があると考えます。一業一会員で構成されたクラブ内の会員同士の多種多様な行為がお互いの幸福をもたらすことを悟ったのであります。ロータリアン的意味での奉仕は心の状態を大切にいたします。友愛、親睦、思いやりであり、お互いに高めあう豊かな人間関

係の思想がロータリーの礎であります。

職業は奉仕の一つの機会なりと心に銘ぜよ、とロータリアンに命じます。職業奉仕は日常の業務の中で、私たちにとりまして一番手近にできる奉仕であります。それは、取引行為や商品を指すばかりでなく、相手のニーズや境遇に正当な考慮を払い、他人に対して思いやりの心を持つこととあります。まず第一に道義の人であり、顧客、従業員、同業者、仕入れ先、下請け等、かかわりを持つすべての人が潤う行為に努めることが求められます。

ハリスは、富の正しい用益について否定しません。しかし、「奉仕第一、自己第二(Service Above Self)」を掲げ、心が物欲から離れることの大切さを訴え、報酬はもとより付随物であることを認識すべきとしています。「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」の由来については、アーサー F.シェルドンの「寛容をもって適正公明に経営された商店、会社の中に、最も成功しているものがある」との観察の結果に基づくものであり、多くの人を感じていたことを明確に把握し表現したものであると述べております。

まず、私たちは奉仕の理論が職業と人生における成功と幸福の真の基礎であることを実証することが大切であります。それによって、若者を含めたロータリアン以外の人たちに奉仕の理論を受け入れるよう、個人として、またクラブとして励ますことができるのであります。その時には外界の変革も可能となることでありましょう。

第2530地区 (福島) PG

## 『手続要覧』と職業奉仕



『ロータリーの友』委員会

顧問 後藤 忠雄 (横須賀南)

10月は「職業奉仕月間」ですので、ロータリーの金看板である「職業奉仕」について、『手続要覧』を通して考えてみたいと思います。

よく、「職業奉仕は難しい」とか「わからない」という声を耳にいたします。それらを解決するには、まず職業奉仕の概念の把握から始めるのが筋だと思います。

『手続要覧』のP.75に、「職業奉仕はロータリーの綱領において次のような言葉によって強調されている」として、綱領の第2項がそのまま引用されており、次に1987年に発表された「職業奉仕に関する声明」の冒頭部分は「職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想を生かしていくことをロータリーが育成、支援する方法である」と記載されています。さらに「職業奉仕は、ロータリー・クラブとクラブ会員両方の責務である」と記されています。『手続要覧』には以上のように簡単な記述しかありません。

「職業奉仕はわからない」などの問題提起に、以上のように簡単に不親切な説明だけで理解を求めるのは、かなり難しいといっていでしょう。

ところで、1986年版までの『手続要覧』には、綱領の引用に続いて、「別の表現をすれば、職業奉仕は、職業の世界において、奉仕の理想を推進することを目的とするものである。すなわち、職業奉仕は、個々のロータリアンが、その職業関係のすべてにおいて——従業員、競争業者、顧客および仕入先との関係において高い道徳的水準を適用し、かつ、

ロータリアン各自がこの水準を、自分と職業を同じくする他のすべての人々のあいだに推進することを意味するのである」と記載されていました。この考えによると、「職業の世界」とは、本来ロータリアンが「個々のロータリアン」または「ロータリアン各自」として、日夜最大の精力、努力を傾けていることであり、個人による奉仕との考えであり、職業人ではない、クラブを主体とする団体の奉仕は全く考えられていなかったと思います。

なぜこの説明が削除されたのか不明ですが、おそらくクラブの委員会活動を重視した「職業奉仕に関する声明」の説明と以前のそれとの間に少々ギャップがあったからだと推測されるのです。

『手続要覧』には、続けて「ロータリアンの職業宣言」(1989年採択)が示されていますが、こちらの方が旧説明とのズレが小さくなっているように思います。いずれにしても、『手続要覧』だけでは、旧説明をややボカしてまで団体奉仕を勧める理由がはっきりしません。

しかし、アーサー F. シェルドンは『ロータリー哲学』の中で「職業の存在の本来の理由は人類社会に奉仕することだ」と述べるなど高い倫理性に裏打ちされた職業観を示しています。彼が体系づけたそれらをもう一度たどりなおしてやることによって、「職業奉仕は難しい」や「職業奉仕はわからない」に対する説明の道標が、私たちにも少しずつ見えてくるのだと思います。

第2780地区(神奈川) P G

## 職業奉仕について



『ロータリーの友』委員会

顧問 仁田 一也 (広島東南)

「職業奉仕」という概念は、ロータリー特有のものですが、それでいて、その真意がつかみにくい、と言うロータリアンが多いようです。

職業奉仕とは「職業を通じて社会に奉仕すること」と、よく言われますが、社会に奉仕するならば「社会奉仕」ではないか、という疑問がわいてきて、そのあたりから意味がいまいになり、「社会奉仕」との区別もつきにくくなって来るようです。

そこで、職業奉仕月間にちなんで、私の考え方を、少し述べてみたいと思います。

英文の『手続要覧』を見ますと、「職業」を表す言葉は、Profession、Business、Occupationなどの使い分けがしてありますが、「職業奉仕」というときは、Vocational Serviceという言葉が使われております。そこに注目して、「Vocation」の意味について、まず調べてみましょう。

ある英和大辞典のVocationの項には、

《神》①（個人又は団体に対し、救世の生活に就けとの）神のお召し、神の召出しによる精神的な生活②天職、使命③Profession、Business

とあり、本来、宗教的色彩の濃い用語のようです。私たち日本人が、このVocationの持つニュアンスを感じとるためには、「天職」という日本語が最もふさわしいかと思います。そこで、ロータリーの職業奉仕とは「天職への奉仕」と言えば、一応納得しやすいでしょう。

さて、ロータリーの基本ルールは、申すま

でもなく一業一会員制と、例会出席義務です。ロータリーの例会は、いわば、ライバルのいない異業種交流の場であり、例会に出席することによって、価値観や発想の違いがあることもわかり、このことがお互い人間としての幅を広げ、豊かな心もはぐくみます。

そして、職場に戻って自分の仕事を見なおすとき、本当の意味での職業の繁栄は、もうけを目的とするところにはなく、利己と利他の調和と、高い道徳、倫理を通して得られるものだ、ということもわかってきます。

そこで、ロータリーの職業奉仕のころは、「天職である自分の仕事に、ロータリーの誠をつくすこと」と言ってよろしいでしょう。こうして質的に高められた職業は、地域社会からも敬愛の念をもって支持され、結果、永続することができ、その功德はおのずから地域社会にも及びます。

社会奉仕、国際奉仕を志向するその母体として、ロータリアン個人の資質の向上と、その職業にとり組むフェアな精神を期待する——職業奉仕の底に流れるこの思想こそ、ロータリーのアイデンティティーと言うべきものであります。

従って、このことを忘れては、他の奉仕団体との本質的な違いはなくなり、ひいては、ロータリーの存在意義すらも失うこととなりましょう。「ロータリーの基本は職業奉仕にある」と言われるゆえんです。

第2710地区 (広島・山口) P G

# 経営の心 1

長引く不況、相次ぐ企業の不祥事発覚などに伴い、「企業理念」「経営理念」「社是」「社訓」の重要性が再認識されています。

ロータリアン企業は、どのような「企業理念」「経営理念」「社是」「社訓」を掲げているのか。ロータリアン経営者はどのような思いで、それら

を制定し、また社員や従業員に何を伝えようとしているのか。

前年度ガバナー事務所を通じて問い合わせをしたところ、たくさん返事をいただきました。誌面の都合ですべてを掲載することはできません。今月号では、その一部をご紹介します。

## 「四つのテスト」が根っこに

サンアイホーム(株)

弘前RC 新町 正之

ロータリー歴がいつのまにか17年になり、職業奉仕の理念が知らず知らずのうちに私の経営の根幹をなすようになってしまったように思います。社員には、「常に大企業になろうとは思わず、一流企業と呼ばれることを目指せ」と言っています。そして、その要件として、以下の5項目を挙げています。

1. 社員とその家族に、この会社に属して良かったと言われる企業。
2. 御客様や取引先に、この会社と付き合い良かったと言われる企業。
3. 礼節を重んずる企業。
4. 地域の人に、この会社が地域に在って良かったと言われる企業。
5. 常に挑戦を続ける企業。

これらはロータリーの職業奉仕の考え方と合致すると確信しておりますし、すべての事業計画は、上記の5項目から出発したものとなっております。

社員の公平な評価、社員への公平な分配、例年の報奨旅行(今年は約50人をアメリカ招待)。日本一を目指すアフターサービス、取引先とのレクリエーション、地域行事への積極参加、介

護実習や清掃奉仕など、メリハリを利かせながら、人間を大切にしながら企業活動させていただいています。

今年から新たに実施した活動の中で、地元の高評価を得ていることに「奨学金制度」の実施があります。これは、親に万一のことがあった場合、ユーザーの子どもさんに対して高校3万円、短大専門学校5万円、大学7万円を会社が毎月無利子貸与する制度です。利用者が少ないことを願いますが、いったんお付き合いを始めさせていただいた方とは、徹底的に親戚付き合いをさせていただこうと考えています。

自分の職業を通じて社会に奉仕する考え方を、具現化させようとしたものです。前年度まで務めた地区職業奉仕委員長の際には、地区をあげて「高校生による職場体験」を実施しました。夏休みに就職を希望する高校生をロータリアン企業に体験入社してもらい、就職後の脱落を防止しようとのねらいがありました。半数近いクラブに協力いただき、100人を超える高校生が参加しました。

今後も四つのテストを根っことし、自らの企業を存続発展させる糧としたいと思います。

(第2830地区 青森県 建築)

## 細くてしなやかで強靱な竹のように

千住金属工業(株)

東京東 佐藤 千壽

最大となることを望まず  
最良となることを望む

この社是ができた理由・背景について語ってほしい、と言われましたが、私からすれば、極めて簡単明瞭、あまりにも平凡な真理なので、別に際立った背景も理由もないのです。そうではありませんか——誰が考えても「うどの大木」より、細くてしなやかで、強靱な竹の方がいいに決まっています。

しかし不思議なことに、世の中の多くの人はこんな平凡なことに思い及ばないのです。現に今、経済企画庁までが「日本列島総不況」と言い出すような経済の大混乱を来した原因は何なのでしょう。脇目も振らずひたすら大きくしよう、大きくしよう、と無謀な信用膨張を許してきた政策の過りと、金融・証券・大企業経営者の無責任拡大競争が、このような破局を招いたのであって、こればかりは抗弁の余地がありません。

経済法則として、生活の向上を図る上で、生産と消費の拡大が必要なことは論を待ちません。しかし、そういう拡大志向は、うっかりすると目的と手段が逆転して、拡大だけが目的化してしまいます。そして資源浪費—環境破壊—信用膨張—泡沫景気—不況失業……となり、急速に「生活の質」を悪化させてゆくのです。

我々の仕事はすべて人間の為にあるのであって、人間が仕事の為存在するものではありません。「量より質」という極めて平凡な真理を、どうして多くの人々が真剣に考えないのでしょうか。仏教者は、「大道無難」・「無事は貴人」・「平凡即非凡」などと言いますが、「当たり前

のこと」を、自分の器量相応に、<sup>う</sup>倦まずたゆまず、黙々とやってゆけばいいのです。

人それぞれの価値観が違いますから、非凡な方は奇想天外—非凡な大業を乾坤一擲<sup>けんこんいつてき</sup>でなさっても結構です。ただ私は病弱で無能無才、平凡無難なことしかできなただけです。

ただそういう人生観の精神的拠り所となって、私の生き方を支えてくれたのは、やはり青年時代に耽読した東洋の古典です。例えば『老子』には「小国寡民」という政治思想がありますが、殊に「我に三宝有り 持して之を宝とす 一に曰く慈 二に曰く儉 三に曰く敢て天下の先と為らず」などというのは、私にとって金科玉条です。

これは2500年も昔の教えですが、いみじくも近年、シューマッハーは『スモール・イズ・ビューティフル』という著述を世に問うてこう言っています——「人間というものは、小さな、理解の届く集団の中でこそ人間でありうる」・「人間は小さいものである。だからこそ小さいことはすばらしいのである。巨大さを追い求めるのは自己破壊に通じる」・「とかく秩序を重んじて創造的自由を犠牲にするのが大規模組織につきものの偏向である」(日本語版「講談社学術文庫」より)

如何なる組織も宿命的に増殖欲を持ってますから、最初から意識して増殖を規制しなければ、組織は際限無く膨張拡大してゆきます。「少数精鋭」と言っても初めから精鋭だけの集団など存在しません。少数の人間に絞って、これに大きな任務を背負わせれば、その少数が精鋭に育つのです。

(第2580地区 1974-75年度ガバナー)

## 経営理念 企業理念

### いろいろ

#### (株)イトウ

第2540地区 秋田県 大館RC 丸谷 統男

人・夢・未来 新たな発想と提案で

1991年制定。人々の豊かで夢のある生活空間の創造をはかり、未来に向かって大きくはばたくため、常に新しい発想をこころがけ、社内、社外に提案していく企業をめざす。(建設請負業)

#### (株)イチヤナギ

第2570地区 埼玉県 人間RC 一柳 芳彦

社会に役立つ「本物」を提供する。

1. そのために、優れた品質と独自性を発揮します。
2. お客様の立場に立って、柔軟に対応できる会社であり、社員でありたい。奇をてらうことはせず、信頼感を大切にします。
3. そして、世間から、いい会社だ、いい社員だと言われ、ここで働いていてよかったと思える会社になるよう、全員一体となって努力します。

1987年、新体制に臨むにあたって制定。よそでできないもの、技術こそ、わが社が生き残れる礎。すなわち「本物を提供できる会社づくり」を目指そうとしました。そのためには、「優れた品質」と「独自性」、「お客様第一主義」を会社経営の中心にすえ、さらに「信頼感」を大切にすると特に社内に宣言しています。

この会社で働いていて良かったといえる会社(労使の信頼感と雇用を確保)づくりに全社あげて取り組もうとの理念も大切と考えました。

(鉄工業)

#### (株)雄松堂書店

第2580地区 東京都 東京小石川RC 新田 満夫

- ・大企業になるよりも良い企業になる
- ・オンリーワン・イン・ジャパンを目指して専門店でありたい。

1960年、創立時に制定。海外から学術文献を輸入し、日本国内の研究機関に納めるという仕事は、当時全くベンチャーの仕事でした。父が創業(1932年)し、戦後断絶していた出版業も含めスタートしました。私たちは、お客さま以上の専門的な知識が求められました。今、当時の夢が実現しつつあります。(学術書輸出入)

#### (株)ゼウス

第2590地区 神奈川県 川崎宮前RC 町山 友義

1. 信念・意欲・情熱
2. 仕事のプロに徹し、豊かな環境と自己の向上
3. 人と科学の調和と発展

1973年制定。企業は人であるという観点から社員に目標(仕事)を達成するための心構えを持ってもらい、社員各位が自分に対して常に挑戦していてもらいたい、という気持ちから作成しました。(移動通信)

#### (株)アルプス

第2600地区 長野県 松本南RC 矢ヶ崎啓一郎

顧客の為に今年も行動しよう

ロータリーの「奉仕の理想」の実践です。相手の立場にたって行動すること。このことは、ポール・ハリスが古く賢者たちが唱えた言葉を引用したのだと言われてます。例えば、孔子いわく「汝の欲せざる所を他人に施すなかれ」、イエスいわく「汝他人より与えられんと欲

するすべてを他人に与えよ」。(果汁飲料製造)

## サッポロビール(株)

第2750地区 東京都 東京銀座RC 岩崎 文哉

経営スローガン いいものだけを

1999年制定。1998年9月に発表した「21世紀へ向けての経営指針」で、当社は「新世紀にふさわしい価値創造へ向けて、サッポロの経営革新を始動する」ことを宣言しました。ここで言う企業価値創造とは、言い換えれば「サッポロビールが、人々の共感を得られるような価値ある企業になっていくことです。これを実現していくための経営スローガンが「いいものだけを」です。あらゆるものにこだわりをもって、最高のもの、最高のサービスを提供していきます。「いいものだけを」の実践を通じて、サッポロの夢を実現します。(ビール販売)

## (株)テルミ

第2770地区 埼玉県 大宮シティ 高田 龍美

- ・全社員の物心両面の幸せを追求します。
- ・地域の方々と共に発展成長し、地域になくてはならない会社を目指します。
- ・建設、不動産、管理業(財産総合管理業)を通して、きれいを創造し、業界の健全な発展と社会貢献を目指します。

1998年10月1日制定。当社は、1987年に設立した資本金2,500万円の中小企業であります。会社設立に当たり、私たちは「いっしょに生かされている」ということに感謝し、「信頼」を何よりも大切に「質の高いサービス」と「人間性豊かな企業集団」を目指しました。「企業は人なり」、常に創意工夫をもたらし、視野が広く、公明正大、意志が強く勇気ある有能な社員を育て上げることを理念としています。

その結果、社業を通して、第1に顧客の発展、成長、第2に地域の健全な発展と住みよい住環

境を提供、第3に公正な利明を計とし、社の発展につながることを最大の目標としています。

最後に社長自らが「物、精神、心」を大切に、企業理念を貫くことが、財産総合管理業として、個人、会社、社会に貢献できるものと確信しております。(マンション管理)

## 小俣保険事務所

第2780地区 神奈川県 座間中央RC 小俣 秋能

地域に奉仕して地域と共に発展する

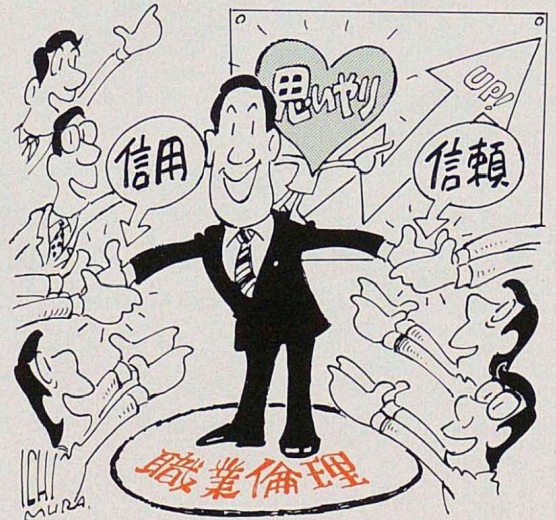
1981年制定。現在の経済状況にあって、堅実な事業経営をし、人間的にも人格者であることを目指す。(損害保険)

## 三協化学(株)

第2640地区 大阪府 川内長野RC 小西 儀一

人の和を大切に  
常に技術を磨く  
社会と共に前進する

1990年制定。グループ作業でありながら、個人プレーとなりがちであったところから、「人の和」を強調した。「地域社会との協調を大事にする」「常に技術の向上に努める」このような意味を込めて制定した。(亜鉛メッキ)



## (株)たかはし

第2660地区 大阪府 箕面中央RC **西村 是滋**

どこにあっても誇りをもって語られる  
「本物を誠実に」

1973年制定。当社は呉服を扱う小売店ですが、工業技術が進歩する一方で、本格派の技術者たちの創作を、きわめてイージーに似せた大量生産型や手抜き商品が氾濫し、伝統的な技術や文化の継承者であるきものの創作者たちの心をこめた「本物」を侵食してきました。誠実とは、本物を知るための努力、お客様に正しく伝えるための知識、使うときの決めごと、カラーコーディネート、伝統やしきたりなどの知識の習得に心し、当然のことながら、常に安心していただける態度と価格で販売すること。(呉服小売)

## 中外道路(株)

第2680地区 兵庫県 西宮夙川RC **新井元之助**

初心に立ち、感謝と挑戦の心で厳しくも温かい信頼される経営を実行し、人と道と環境と社会に貢献する。

1995年4月制定。創立30周年を機に新たにさらなる発展を期し、「和をもとう・熱意をもとう・誠意をもとう・創意をもとう・感謝をもとう」という社是に加えて経営基本理念として発表した。(金属製品製造配布)

## 宮川工機(株)

第2760地区 愛知県 豊橋ゴールデンRC **宮川 嘉朗**

資源・環境・健康に極めて重要な水と関わり、社会の為、お客様の為に社員全員で貢献し、会社の繁栄と社員の幸福の実現を目指す

1997年制定。会社の長期ビジョン策定にあたり基本となる理念を明文化した。(木工機械製造)

## (株)七宝

第2670地区 香川県 観音寺東RC **岩田 次夫**

企業は人也  
日々努力反省、協力  
種子が世界を制す  
育種は哲学である

1975年制定。日本のタマネギを支えて50年、優れた品種の育成、その種子の安定供給を行っている。日本全国のタマネギを優れたF<sub>1</sub>種に置き換えたことで、日本の農産物の中で、タマネギは数少ない国際競争力に耐えられるものとなった。職業奉仕に徹することで経営も安定し、社員も次第に成長し、社会へ貢献することに喜びを感じているようである。上記のほかに、「四つのテスト」も活用している。(種苗栽培)

## (株)ダイクレ

第2710地区 広島県 呉RC **山本 耕**

信頼される明るい会社

1965年5月改定。経営者も従業員も一致協力して大いなる目標に向かって励む、を信条として制定された。会社の風格は信条を守り抜く努力でできあがるということが背景となっている。(鉄製品製造販売)

## (株)サニー・シーリング

第2730地区 宮崎県 都城西RC **窪田 次生**

1992年3月制定。同年組織を改組し、(株)サニー・シーリング設立に伴い、創業以来モットーとしてきた「高品質」「先進性」「柔軟性」を持った製品をユーザーに提供することを経営理念として定め決意を新たにした。(特殊印刷)

お知らせ 11月号に「経営の心 2」として、企業理念、経営理念、社是、社訓を引き続きご紹介いたします。